



繪本寫寶袋

五

40

~~P  
273  
5~~

逍遙文庫  
文庫6  
1293  
5



繪本寫真袋五之卷目錄

金龍復成王圖

周公且之像

周公作指南車圖

羸州子養馬圖

幽王放火其圖

甯戚叩牛角圖

晉季車馬遊獵圖

覆水重不收圖

叔虞作桐葉封弟

穆王逢西王母圖

姜皇后保宣王圖

管仲之圖像

秦穆公好琴叔圖

趙襄王偃奪車馬圖



寫真袋五

文庫6  
1293  
5

卷由基之像

叔父人猪尻丘山

伍子胥争舟的捕者

雲外小叔射虎

孔子嬰兒之時戲面

繪本寫室袋六之卷

金龍武王の守護とる事

殷の討まぬ運を乃すく事民の善慮と武王の徳を公  
室を議と天下れしゆふ討まむわらへしならんを  
弟の軍長と起し帝都の村を討まぐ八十万路と牧  
野に我ひしふ河殷の徳おそく我員て進ひしあつたふ  
討まふ天お小方相とつたふ徳と横とるは抱てぬ武王の  
陳お絶入たふ突太に衝く人あつたふおけごとく徳は武王  
乃中陳にしし入る長徳とぬて武王と判んをすらんおの光  
輝とて八尺の金龍出現しと武王の車駕とを掩ふ方相  
突とて武王をせぬ教直生南文治の二おとぞ小討んを方相  
あれ我とて二十余命過る活捉とて武王に見む武王方お  
勇まむ徳と命と教ふふを後方おる白討まぬ武王の  
面目ありて命は傳へん中をさつて骨削て死と

寫錦袋五

大公室姜尚

古公を  
孝順 慕  
親常中と



周武王

方相



覆水重收

大いなる軍師となりて討つが如く平也  
 武王帝位は即ち公を祿とし大いにこれを  
 うけて公も勇に後漢を以て一馬の車に  
 千の師を更え士年といはれしを  
 乃る氏に備へては是れ述べしを  
 乃る氏に備へては是れ述べしを  
 乃る氏に備へては是れ述べしを  
 乃る氏に備へては是れ述べしを  
 乃る氏に備へては是れ述べしを  
 乃る氏に備へては是れ述べしを  
 乃る氏に備へては是れ述べしを  
 乃る氏に備へては是れ述べしを  
 乃る氏に備へては是れ述べしを

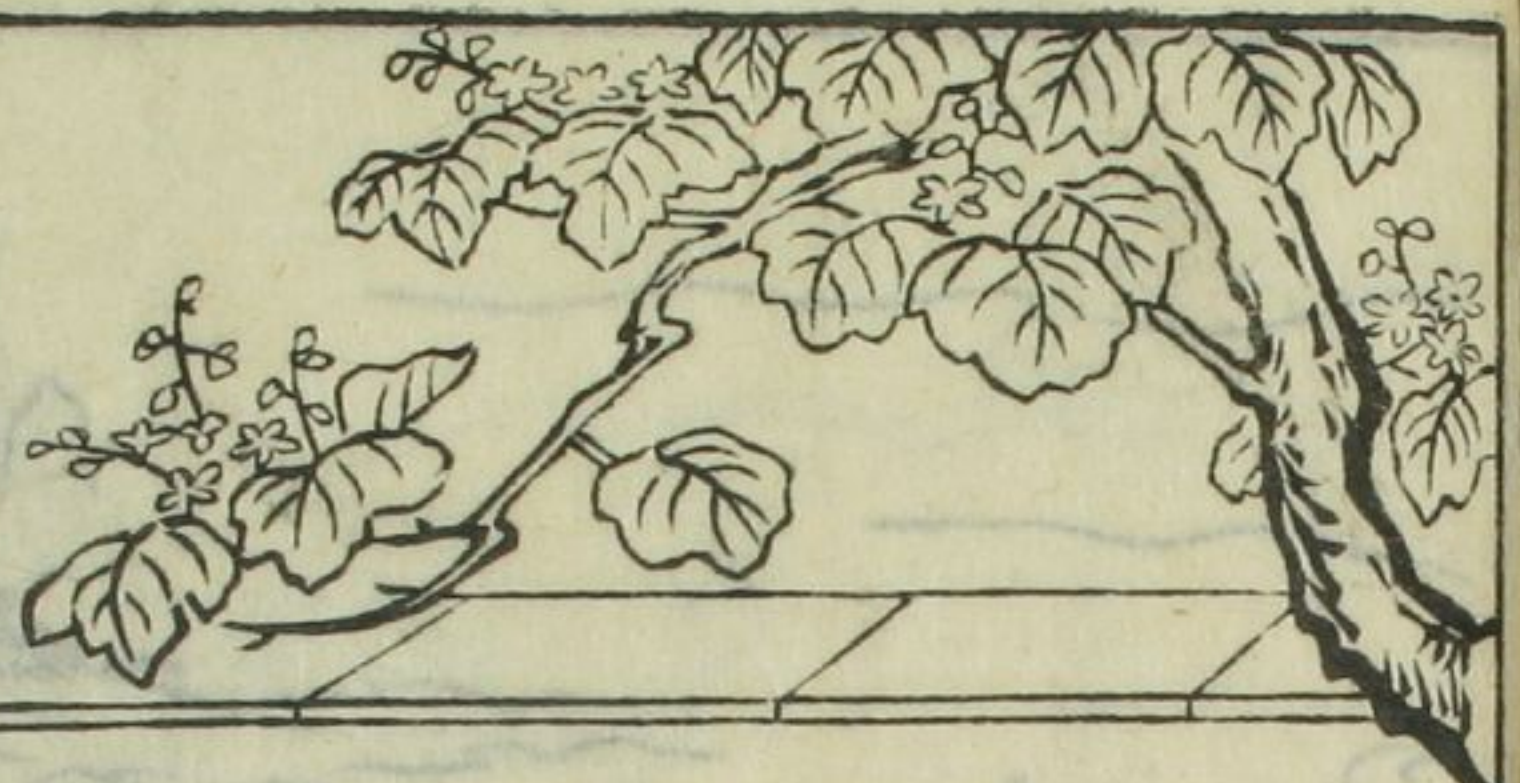
周公旦

姓、姬名、且武王、  
 弟、負朝、攝政、作  
 樂、制、禮、二、叔、不  
 咸、居、東、有、懸、命、  
 緘、啓、忠、雷、雨、應、  
 敏、袞、衣、言、歸、赤、  
 爲、何、病、展、祀、魯、  
 邦、千、載、元、聖、



周公旦 成王の時武王の弟にして大聖なり武王崩るるに成王四年を  
 即位し幼少なり周を治るに専らし魯侯の元祖なり 史記世宗の  
 周の宗室にして七年の後に成王に還り魯を治るに専らし 礼記  
 文王十二年に魯を治るに専らし 魯の宗室にして七年の後に成王に還り魯を治るに専らし

吳船中へ人長く指改とすること周公且指改の如くして  
 信和天皇幼時御外祖忠仁公天子小なりぬと指しありて周公の例  
 と別ひありとあり嘗く用公の子弟會ふ侍て甲く我々皇の子長  
 王の才成をこれ知たりと云ふは是れは公の才成と指し一交飯  
 とすれども公の才成と云ふは公の才成と指し一交飯と云ふ  
 叔虞相成の如く周成王一日中叔虞を奉る相成の如く周成  
 王の才成をこれ知たりと云ふは是れは公の才成と指し一交飯  
 とすれども公の才成と云ふは公の才成と指し一交飯と云ふ  
 叔虞相成の如く周成王一日中叔虞を奉る相成の如く周成  
 王の才成をこれ知たりと云ふは是れは公の才成と指し一交飯  
 とすれども公の才成と云ふは公の才成と指し一交飯と云ふ  
 叔虞相成の如く周成王一日中叔虞を奉る相成の如く周成  
 王の才成をこれ知たりと云ふは是れは公の才成と指し一交飯  
 とすれども公の才成と云ふは公の才成と指し一交飯と云ふ



桐葉之詩 叔虞

桐葉落庭除  
 吾王削作珪  
 如念連枝秀  
 春風共暢舒

周成王



叔虞

先君の王乃元祖後は  
 練趙魏の三國とす



史佚



成王の神時萬夷の役奉りて貢獻る日使に曰はば  
 多と告とまかほつ必路の程中國より夷里ありて  
 二千里の山て事ありて一奉余と経て系肝より  
 小令して曰く萬使に國よなる夷里の苦とて  
 作て當使は賜ふ萬夷は車と先はそ括と方小  
 國務王の附徐洽達といふ夷系師は故來んとい  
 事方乃依候藤余子に命じて是と依し給是八  
 日小當らば一日小千里と行徐子洽達と付九  
 故とまかほつとゆふの善くして下と廻く名  
 人といふる士は事ありてを彼八強は大括  
 頂はあり瑞池に練るは是ふありて最下の文  
 事門に入りて天子御幸の事ありて若し母と  
 ありて敷たれは女と率の朝とて出く概に曰は

因幡王逢西王母場







王宣諫 善脱后皇姜



周孝王の二千之河麻也子小故ていさくく春て物多し年と  
 初まふ也子初命たりけりまゝの河溜らふ大河の志は善ふ  
 け河の向ふ我まそ毎日成入る夫と山事りけ河よそあま善也  
 子一川乃汁とせし犯るも善れよまつたあせられたる壯るも河  
 入て流しあ何を河岸のこる犯るも壯るも暮いこりふ  
 物多しけり河向ふの成入る夫犯るの物とてね平五川と後て  
 け方れ者に事るはあしくせれて一年かゝるふ多るは成  
 者主大よまれい也子に秦國の婦人は秦始を帝の元祖たり  
 周宣王の姜會后の愛しそ我河富しそは事に急りなすふ尹を南  
 あまは嘆と傳者よるも皇想てそ善と地よ投打會后を善と元  
 初めつくと見るひて是善とれにありす善と料たりそそ自  
 善と院と夜露と射とくもその善と院と陛下及よ善と院とよ  
 急りたもあつは善と善と院とくもあつたりねくは善と院とて  
 善と院と射とくもその善と院と陛下及よ善と院とよ



望邊樓

此王臺の  
望邊樓と  
名を  
傳へ  
て  
見  
ゆ  
べ  
し  
き  
事  
也

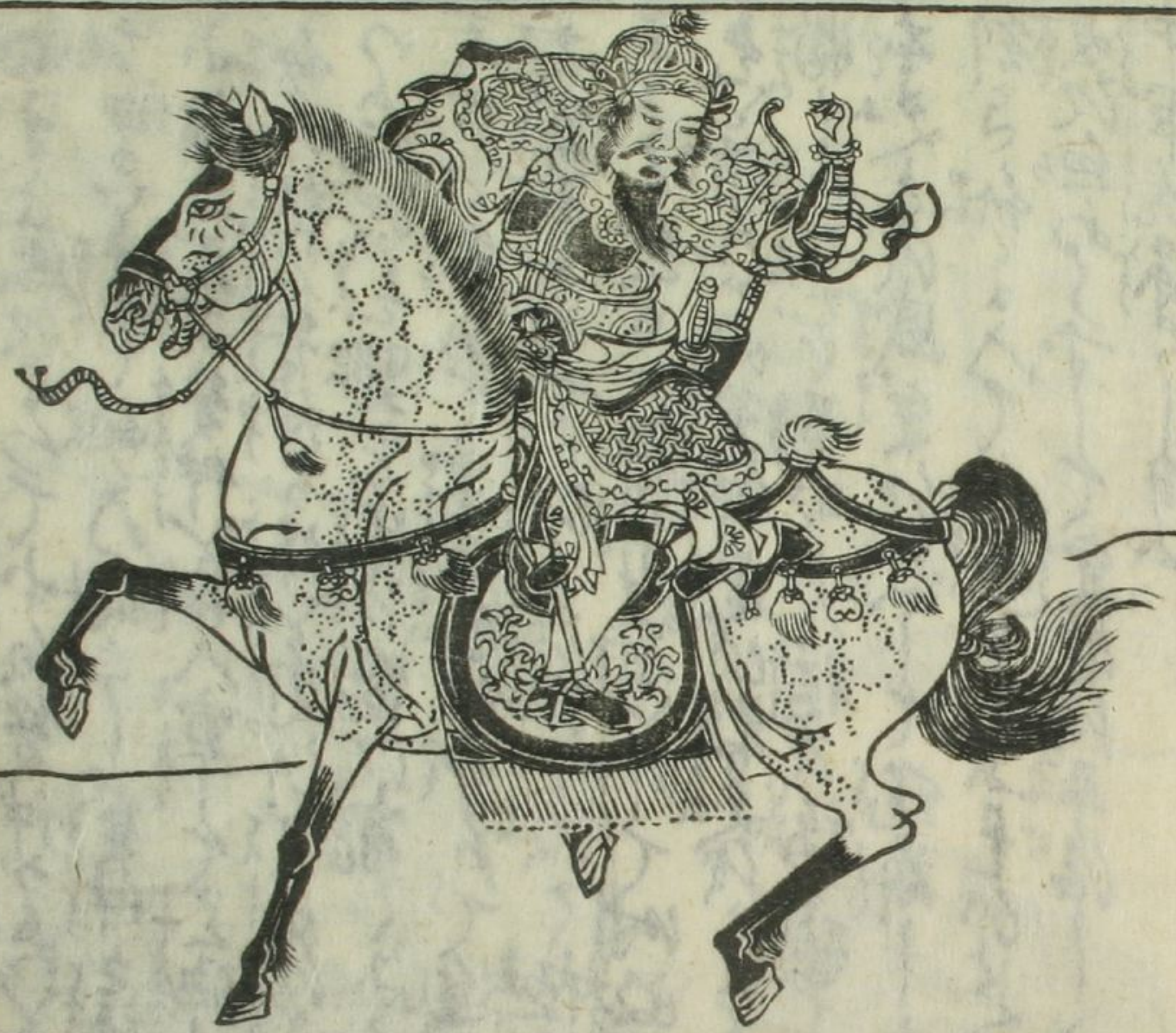
望邊樓

烽火臺之圖



烽火臺

出王復則と守を樹は輝火と見えて笑の樂じ事  
輝火を云へる宮城小太事いさくは見は煙のあけて都  
あは小園くよりたれと見えて地あるこあありあふに用  
意州といふ人ハ親愛してたす色小煙のあつるふまの儀  
軍兵と卒て都小太の出王復則と并小守を樹はあてられ  
と見ら小路くくさ歌あつてまの戯きあつてとまをさつり  
くいまに取ら王笑人と常と振て大又笑樂じも後大茂中  
玉とありし軍城成せむらひつて輝火のあけては儀とあて  
又まのあつてまをさつて一人と来す出王復則とあひま  
乃こあふりあつては 村まが地給の刑と出王輝火臺の臺と  
是と一雙の若とれ黄と大田のつとれまをさつてまをさ  
あやまら倫の若ありとつり小書さつてまを  
漢書に云へる案の常に冠と防んあふ小守を樹はれ復養と後  
是と絶ておまの復養の煙をさつて其のやりて斜すすも復養といふ



舟の裏公を後養を甫に  
裁るは時養公の才料を  
ほにむらふ種はあつた  
まをさつて魯公より後養  
千ととくも傳養付命  
トて種まに神をわけ又  
も身小守を傳養付命  
り小宮園の坊卒てま  
はゆる後仲是儀遊りあ  
と回するまをさつて  
あは小守も位と奪りん事  
る中とつて小守とれり  
そまをさつて果つてか  
は中らけ其の兵養付小守  
くかゝる後仲小守かれ

真金 全書

返を小石く申、麻子登、後、即、是、と桓公と、子、を、後、  
 初、牙、を、薦、に、ら、て、小、白、愛、仲、が、矢、を、射、る、仇、を、殺、し、其、の、男、  
 女、を、奪、つ、て、殺、し、入、相、を、殺、す、愛、仲、を、殺、す、仇、の、大、は、霸、を、下、  
 小、指、ふ、天子、愛、仲、を、入、宣、し、て、三、派、の、殺、す、を、命、じ、  
 秋、の、桓、公、管、仲、を、殺、す、仇、の、天子、に、奏、し、て、仇、を、殺、す、小、指、と、  
 の、小、石、を、盟、と、申、公、盟、に、能、く、み、つ、つ、て、桓、公、を、殺、す、を、命、じ、  
 大、軍、を、率、ひ、て、東、の、國、を、守、り、て、進、交、を、と、る、に、衛、を、入、魯、  
 文、甯、成、と、い、ふ、公、孫、多、に、牛、を、殺、す、桓、公、の、お、お、小、近、づ、ん、だ、  
 是、と、い、ふ、か、り、乃、は、牛、を、殺、す、を、命、じ、時、政、を、刺、し、殺、す、桓、公、を、怒、く、  
 是、と、折、ん、だ、愛、仲、を、向、い、殺、す、を、命、じ、小、凡、人、は、あ、す、可、く、  
 猶、し、あ、い、ま、と、是、を、わ、ん、桓、公、を、殺、す、を、命、じ、と、い、ふ、ら、甯、成、と、下、軍、  
 を、支、つ、て、威、家、に、使、し、て、仇、を、殺、す、を、命、じ、と、い、ふ、と、十、里、の、地、を、  
 刻、し、秋、を、入、て、仇、を、殺、す、を、命、じ、と、い、ふ、甯、成、が、仇、を、殺、す、を、  
 又、は、仇、を、殺、す、と、申、す、と、甯、成、が、平、治、し、つ、り、と、甯、成、を、愛、し、て、  
 中、軍、を、統、領、し、つ、り、と、申、す、

ナンサササリノ草ラリオアアコノキセキナ  
 南山燦白右爛中有鯉長尺半  
 生不逢堯與舜禪短褐單  
 衣纔至爵從昏飯牛至  
 夜半長夜漫々何時且





多ク多クナキリクワレ  
 桃花紅時李花白  
 名ラコウリハタテスミシヨ  
 桃紅李白呈春色  
 色リアリカニイサルアホ多  
 惟有寒梅不闘芳  
 花カニミテ子シクハカク  
 藐視年光為過客



寶鏡什卷五

七三

蘇の侯と云ふに姓の塞名六叔字の伯尉と云ふ人の地、古今小  
 通して軍事の境を以てしとて、宋君とて、古の秦侯の  
 百里奚の言はるるに、公孫鞅とて、蘇を以て、聘して、蘇侯ら  
 し、不致を以て、凡そ、竹林の中に、信を以て、白を以て、たふ  
 して、茅屋あり、鞅を以て、一りの、家、龍と、呼く、門より、童子  
 出、て、主人、と、和ら、り、花、ん、を、あ、り、け、り、う、る、な、り、と、い、ふ  
 一、強、る、に、多、り、の、耳、を、く、か、こ、り、獲、る、る、布、の、袍、を、美  
 し、僕、亦、持、有、り、し、て、せ、て、ぬ、る、鞅、出、り、し、塞、ぬ、り、り、り  
 一、進、く、茶、屋、に、入、り、鞅、奉、公、の、命、以、告、る、に、塞、ぬ、か、り、難、し  
 鞅、向、ふ、且、百里奚の、若、し、り、と、い、う、る、を、こ、ら、ん、と、い、ふ  
 と、仕、と、後、り、茶、本、と、共、に、腐、る、る、ん、や、と、て、塞、ぬ、し、侍、い  
 秦、に、お、る、奉、公、陪、陽、の、一、つ、つ、と、進、く、と、た、ま、ふ、封、し、百里奚  
 共、に、治、し、し、ま、り、秦、の、國、大、に、霸、業、を、振、り、切、り、名、を、そ、そ、  
 官、と、稱、し、蘇、の、蘇、村、に、り、半、余、と、て、死、す

晋の獻公、驪戎、を、伐、つ、て、驪、姫、を、以、て、妻、と、す、  
 驪、の、女、の、名、が、み、と、す、後、に、驪、姫、を、中、た、り、い、ち、子、中、生、を、得、し、  
 殺、し、中、生、の、身、を、耳、聾、と、云、國、も、也、と、言、耳、の、聾、を、表、す、  
 梁、の、玉、に、之、を、奉、り、後、里、克、と、い、ふ、臣、實、蘇、と、殺、し、驪、姫、が、徒、  
 り、ら、は、し、妻、を、以、て、迎、く、佐、小、即、先、と、惠、公、と、い、ふ、耳、の、聾、を、  
 婿、と、す、十、余、年、を、経、て、二、の、子、を、生、じ、後、趙、衰、狐、毛、等、を、  
 蘇、楚、と、名、を、大、玉、を、以、て、造、造、と、言、の、國、も、か、り、入、ら、ん、と、  
 蘇、に、お、る、諸、公、門、を、以、て、内、ら、し、し、也、言、耳、を、怒、り、て、  
 國、よ、い、る、に、報、を、盡、く、お、し、疾、を、い、ち、は、り、と、殺、人、の、養、父、牛、  
 飯、を、食、ふ、言、耳、聾、と、す、て、中、を、食、ひ、求、む、農、父、が、曰、我、も、  
 乃、亦、何、を、作、り、お、ん、ん、と、云、蘇、楚、を、去、り、て、蘇、に、  
 年、を、去、ら、り、井、に、り、ん、と、云、蘇、楚、を、去、り、て、蘇、に、  
 と、い、梳、篦、を、以、て、回、去、り、國、の、基、を、り、て、  
 其、の、車、を、下、り、下、り、て、蘇、楚、を、以、り、蘇、子、推、  
 蘇、の、蘇、子、推、を、蘇、公、女、蘇、氏、と、言、耳、の、聾、を、  
 蘇、の、蘇、子、推、を、蘇、公、女、蘇、氏、と、言、耳、の、聾、を、  
 蘇、の、蘇、子、推、を、蘇、公、女、蘇、氏、と、言、耳、の、聾、を、

十英傑  
 輔佐  
 重耳  
 從之  
 趙襄字子餘  
 白季字平臣  
 公孫賈陀  
 魏犢字公諒  
 介子推字公愆  
 顛頡字高舉  
 先丹木字時春  
 畢萬字極之  
 狐毛字子羽  
 狐偃字子犯







春由基 姓ハ奏名由基 楚莊王の臣 叔敖が小卒也 弓く射し  
林のにおし 百びなく 百び中なる 先鋒の争ひの 時百歩 近く 柳  
乃 築く 射者 之 先鋒の 敵を 捕と 共 王の 討 春由 之 敵 大 軍 兵



由基軍兵 亦 あり  
と 久 へ お れ 小 卒  
と び び び なる 百 歩  
を 弓 射 小 卒 也  
敵 へ 近 づく 時 也  
弓 射 小 卒 也  
この 晋 侯 也 弓 射  
由 基 軍 兵 亦 あり  
依 弓 射 小 卒 也  
万 伏 射 小 卒 也  
由 基 射 小 卒 也

雲外 鴻夜 射聲 楚の 春由 雲 之 居 射 之 信 之 信 之 信 之 信  
鳥 之 音 一 年 以 因 の 後 其 臣 之 靡 之 之 靡 之 之 靡 之 之 靡  
と び び び なる 百 歩 中 なる 先 鋒 の 争 ひ の 時 百 歩 近 く 柳  
乃 築 く 射 者 之 先 鋒 の 敵 を 捕 と 共 王 の 討 春 由 之 敵 大 軍 兵



類文人傳  
丘山圖

贊曰

尼山巖々魯邦是瞻  
降靈自母孕聖歸男  
既驗以形遂徵以名  
一誠感格萬古明文



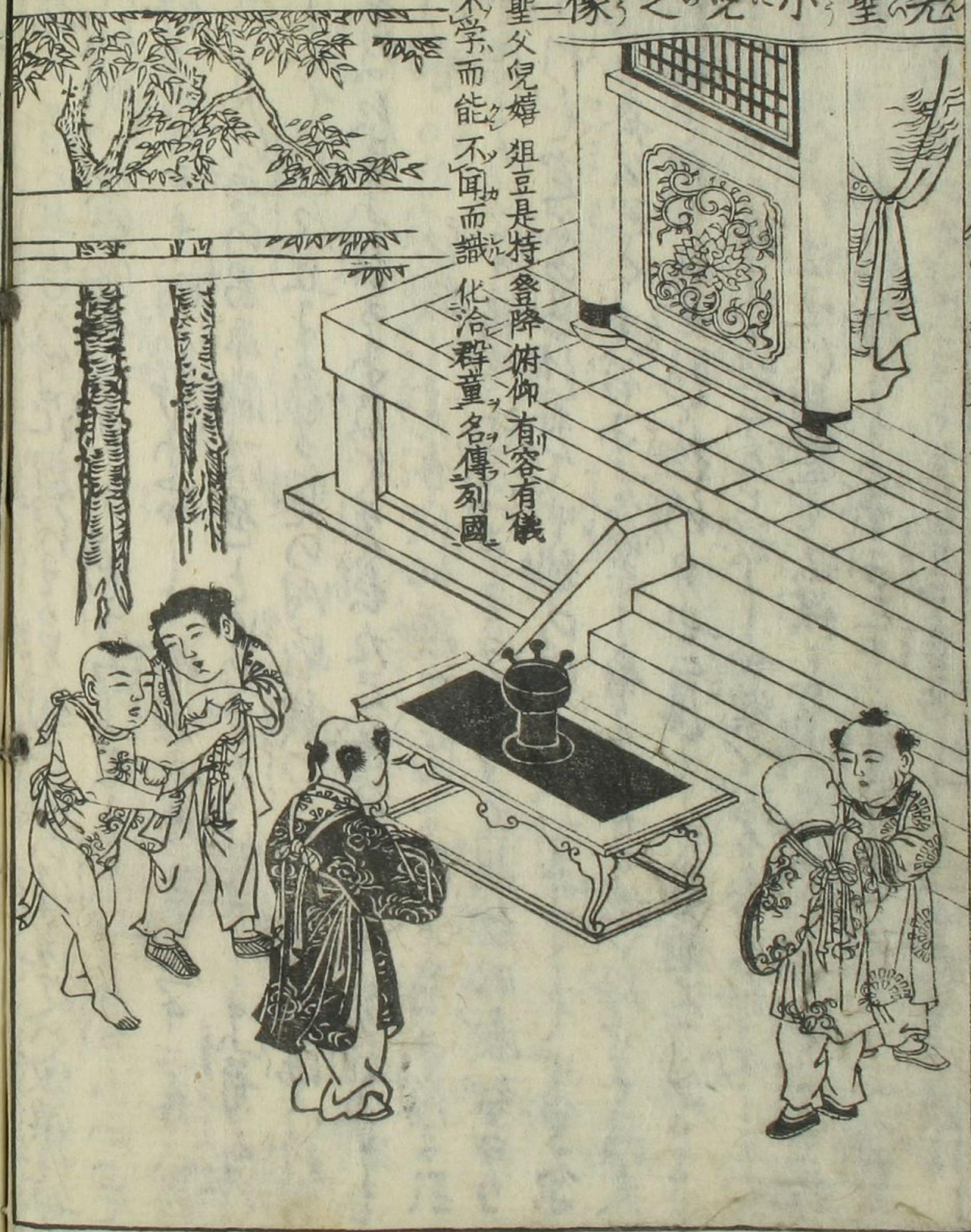
孔子名丘字仲尼殷紂王兄微子啓の孫也父叔梁紇母  
 之有氏叔梁紇女子多子而男子少故曰魯之衰也  
 神曰揚るも時山野小宿し七情姐と魯襄公三十二年八月  
 廿七日己酉の昌平麻阪邑といふ所に生れ  
 一ヶ月に及ばず母を失はれ父の遺腹に  
 と後年母を失はれ父の遺腹に  
 乃容れ月経類に光帝の御項車陶に  
 と腰より下馬王ふ及ばざるに寸天性  
 乃れ心定公ありて汝月て中郊の宰  
 乃れ心定公ありて汝月て中郊の宰  
 乃れ心定公ありて汝月て中郊の宰  
 乃れ心定公ありて汝月て中郊の宰  
 乃れ心定公ありて汝月て中郊の宰  
 乃れ心定公ありて汝月て中郊の宰

萬壽宮

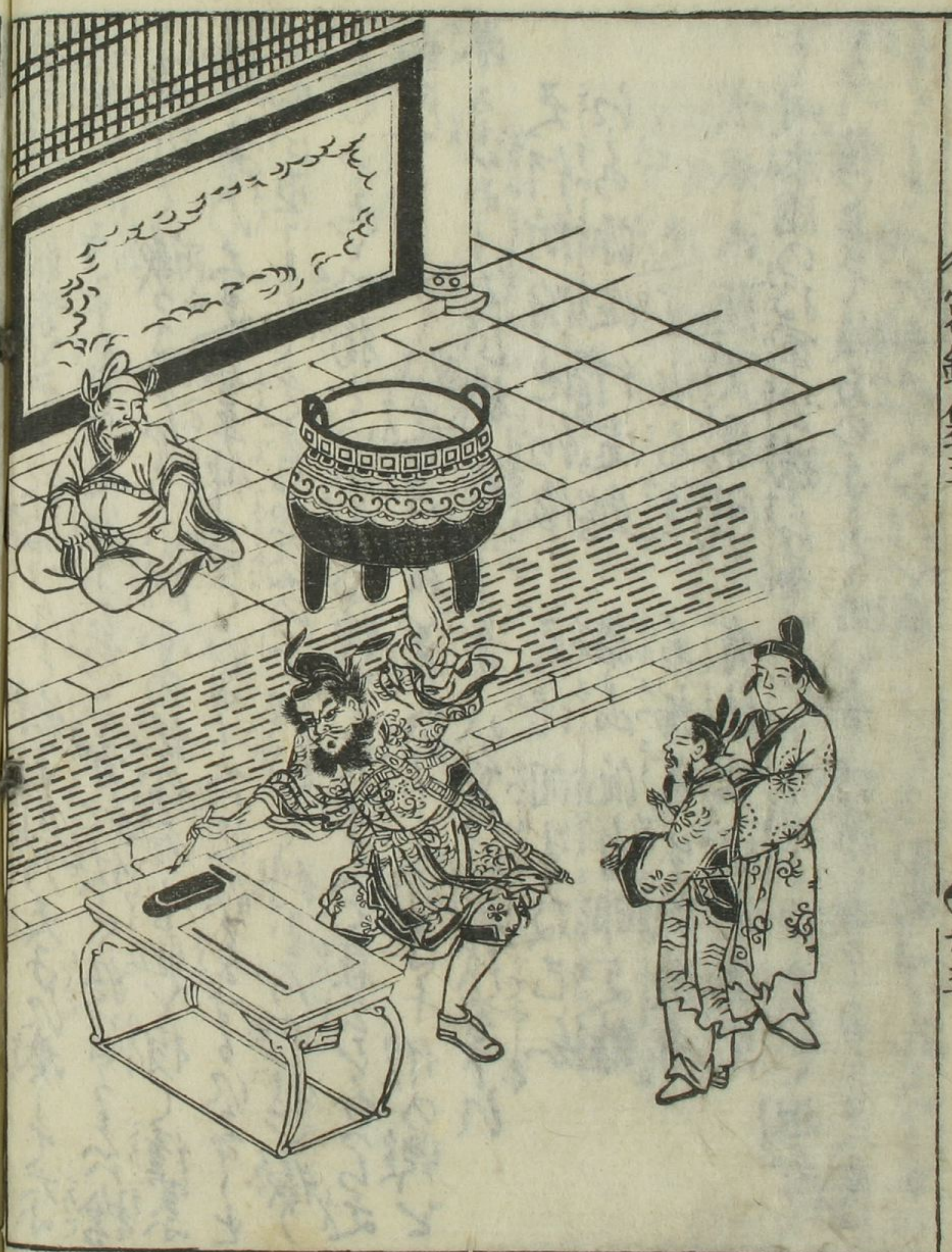
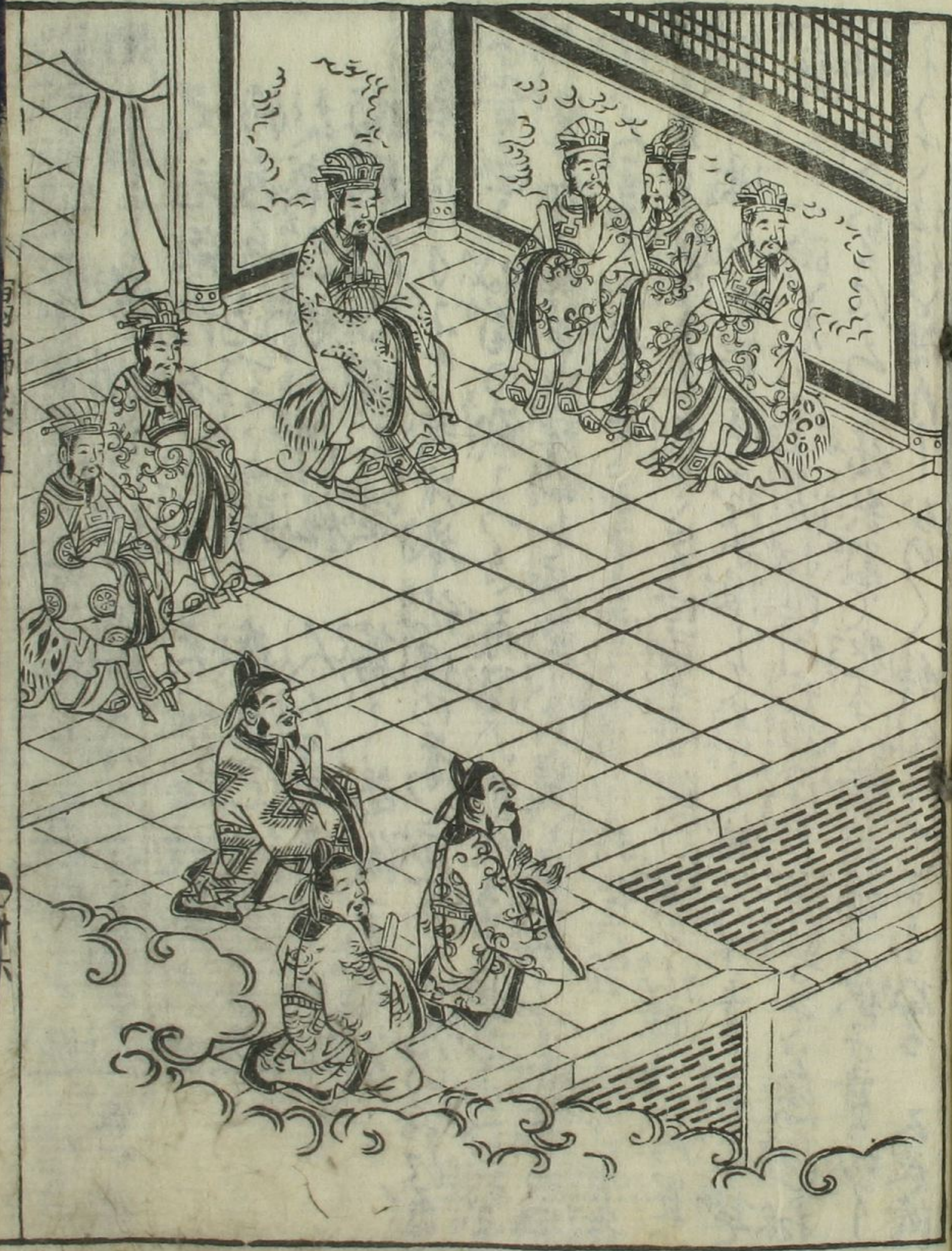
七四

先聖小兒之像

聖父兒嬉俎豆是持登降俯仰有容有儀  
不學而能不聞而識化洽群童名傳列國



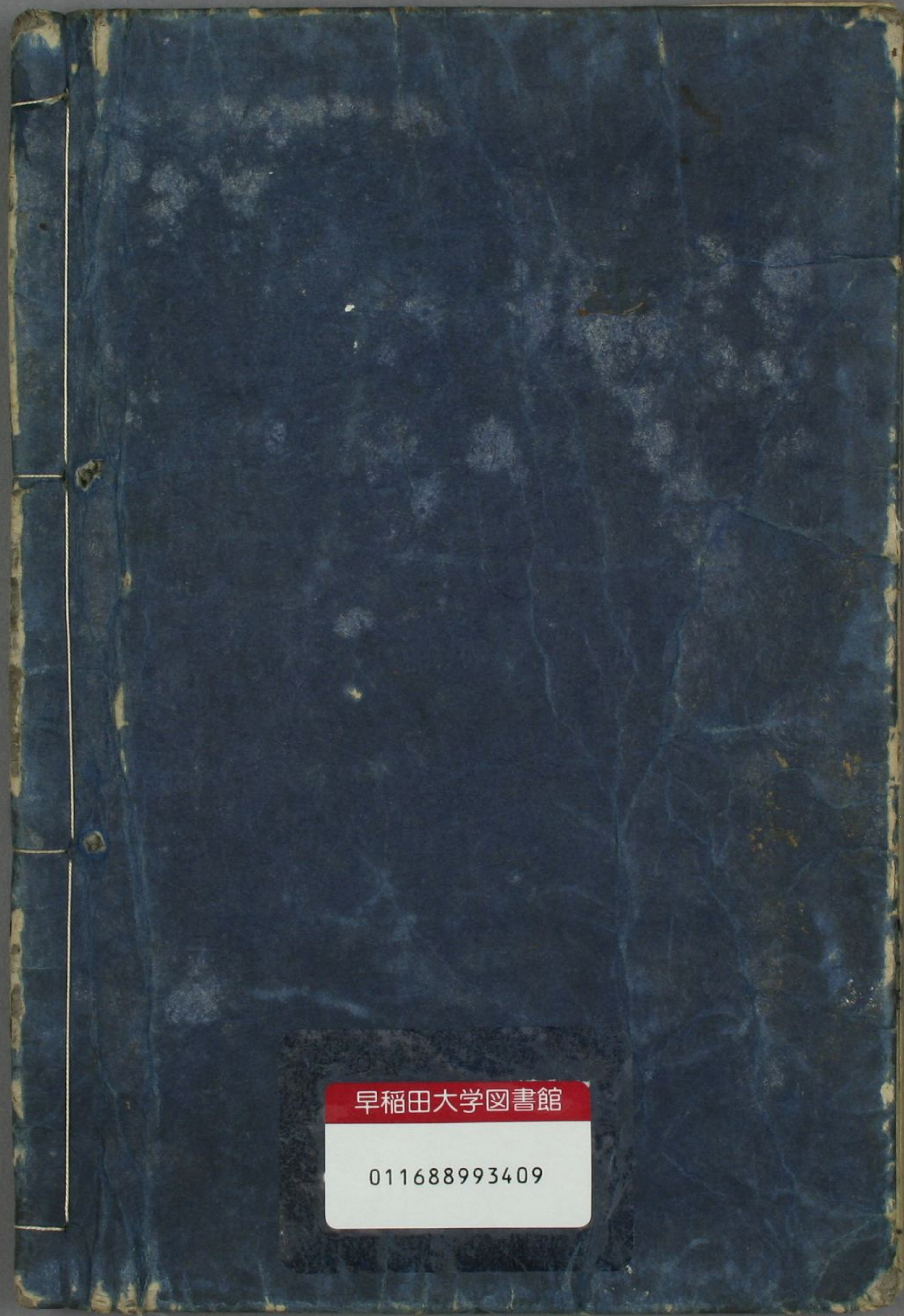
秦の哀る覇業と天下に振らんを第一因乃天子に奉りて奈  
依侯と依侯と云と又信ふ共とに方に伏く候はるるを  
あせんと候ふらふと小列侯の依侯各宝物と持て依業  
公の正直して之を善徳の士成りて列玉乃是此と  
定むるはと候と先の捕と立たりと夜公とあつら文  
題下と云と文宗は我と善の時又重と平介の興と  
奉るはあつらふは候と平介の興と  
天行所附地何依  
江の源は竹處出  
人乃造運作高重  
依奉六題要問  
有能明は是男兒  
時秦國の將軍公孫赤と云と  
中川題と云と後西のちとて興と奉地はと云と平介の興と  
赤くして下に在は人あれて感とすて小の捕とらんを奉るに



寫金瓶梅

十五

楚王の好軍依子音向道と曰公孫右文法梅と題と好其  
 照と奉て種と離と何と山嶽とんて争とれ若て曰  
 天元微地々々々々  
 何ふ月從てんて  
 去神守又  
 楚王の好軍依子音向道と曰公孫右文法梅と題と好其  
 照と奉て種と離と何と山嶽とんて争とれ若て曰  
 天元微地々々々々  
 何ふ月從てんて  
 去神守又  
 楚王の好軍依子音向道と曰公孫右文法梅と題と好其  
 照と奉て種と離と何と山嶽とんて争とれ若て曰  
 天元微地々々々々  
 何ふ月從てんて  
 去神守又



早稲田大学図書館

011688993409